

PICC 2017 年度活動報告書

(2017 年 1 月 1 日から 2017 年 12 月 31 日まで)



一般社団法人

公益資本主義推進協議会

Public Interest Capitalism Council

目次

➤ 会長（代表理事）ご挨拶	P.02
➤ 公益資本主義について	P.04
・公益資本主義の「三本の矢」	
・新しい企業価値の3つの指標	
➤ PICCについて	P.05
・PICCのビジョン	
・PICC 団体概要	
➤ 事業の概況について	P.06
・設立から体制づくり	
・2017年のテーマと活動	
・新たな活動、マイコミュニティフォーラム	
・2017年度の業績概況	
➤ 2017年度 決算報告	P.08
・2017年度 合計貸借対照表	
・2017年度 合計正味財産増減計算書	
・2017年度 事業別正味財産増減計算書	
・財務諸表に関する注記	
➤ 2018年のテーマと課題	P.12
・2018年 PICC テーマ	
・2018年 PICC が取り組む課題	
➤ PICCの委員会活動 会員による「公益資本主義」の実践	P.14
・100年企業研究委員会	
・地域活性化支援委員会	
・教育支援委員会	
・途上国支援委員会	
・会員交流委員会	
➤ その他の取り組みについてのご紹介	P.20
・第2回 PICC 優秀事例発表会	
・新「在り方」勉強会について	
・「王道経営の実践」宣言	
・マイコミュニティフォーラム	

会長(代表理事)ご挨拶

近年の日本経済は、株価を見ても、完全失業率や有効求人倍率を見ても、国内総生産を見ても、数値的には総じて好調です。しかし、「実感が乏しい」好景気と言われる通り、日本人・日本企業からかつてのような元気も自信も感じられません。なぜでしょうか？

その最大の要因は、経済を支える企業が米国型資本主義のルールで経営されるようになってきているからであると、私は考えています。日本中の会社が違和感を覚えながらも「数字を達成することが最優先だ」「より短期間でより多くの利益を株主に還元することが企業価値である」という偏った価値観を持ち、「自分さえ良ければ」「今さえ良ければ」という考え方で経営判断を下しているのです。その結果として、粉飾決算、商品データの改ざん、談合、著作権侵害、計画倒産、ブラック企業等、さまざまなかたちで社会を騒がせる存在となっています。企業は本来の存在意義を忘れてしまったのです。

また、アメリカを猛追する中国では「国家資本主義」が力を付けてきました。しかし、これもやはり「儲けるためならなりふり構わず」というスタンスであり、これから大きな経済成長が期待される近隣諸国への影響を考慮すると、非常に強い危機感を抱いています。

企業とは本来、社会の困りごとを解決するために存在しています。お客様から選んでいただけるよう、企業はより良い商品・サービスを提供するために努力し、その結果として収益を得ることができるのです。その中から社員へは給与というかたちで、株主へは配当というかたちで利益の一部を分配します。あわせて、企業の事業活動は取引先や仕入れ先の収益にも寄与するものであり、また社員の雇用や納税を通じて地域社会や国の維持・発展にも貢献しているのです。

このように、企業は経済を支える「社会の公器」と言える存在です。すなわち「社員」のものであり、「顧客」のものであり、そして「株主」のものであり、「取引先」のものであり、「地域」のものなのです。日本では古来、こうした考えを根底に持った商売が行われていました。

「三方よし」「和を以って貴しとなす」「吾唯知足」、古くから日本に根付くこのような企業の在り方にもう一度、しっかりと目を向けていくことが、今の時代だからこそ必要であると確信しています。

これから世界経済の中心となるべきは、米国型の株主資本主義でも中国型の国家資本主義でもありません。社会全体の利益を考える資本主義、日本型の「公益資本主義」です。

私はこうした考えを日本中に、そして世界中に拡げ、変えていくため「公益資本主義推進協議会（以下「PICC」と呼ぶ）」という組織を作りました。

PICCでは、「限界が見えてきた現資本主義に成り変わる、新しい日本発の資本主義＝公益資本主義を世界に発信し、地球益に貢献する」をビジョンに掲げ、諸外国から真に尊敬される日本づくりの実現に向けて様々な活動に取り組んでいます。一つ一つの活動は大きな影響力はありません。しかし、このPICCを、公益資本主義について学ぶ場、実践する場、そして啓蒙する場として全国に広めていくことによって、必ずどこかで世の中を変えるためのきっかけを作ることができると思っています。

この趣旨に賛同していただける皆様、ぜひ本協議会にご参加いただき、一緒に新しい資本主義の在り方を考えていきましょう。そしてこの「公益資本主義」を、広く世界に発信していきましょう。ご協力よろしくお願ひいたします。

以上



会長（代表理事） **大久保秀夫**

公益資本主義について

PICCの最高顧問である原丈人氏は著書『「公益」資本主義 英米型資本主義の終焉』（文春新書）の中で、公益資本主義について「企業の事業を通じて、その企業に関係する経営者、従業員、仕入先、顧客、株主、地域社会、環境、そして地球全体に貢献する」ような企業や資本主義の在り方と定義しています。

「公益」と言うと利益を追求するのが悪いことのように思われるかもしれませんが、そうではありません。その逆です。企業を支えるすべての関係者に貢献するため、大いに稼ぎ、持続的に発展していく必要があります。

公益資本主義の「三本の矢」

持続的経済成長を促すため、公益資本主義の「三本の矢」として、次の3つを重視します。

- ① **中長期投資** — 持続的成長を支えるために、中長期的な投資を行う。経営陣は、短期の利益を求めつつも、中長期的な課題にバランスよく取り組む。
- ② **社中分配** — 会社があげた利益を、株主だけではなく、会社を支える社中各員に公平に分配する。こうすることで社会の格差を是正し、貧困層を減らし、層の厚い中間層をつくる。
- ③ **企業家精神による改良改善** — リスクをとって果敢に新しい事業に挑戦し、常に改良改善を求める。本業で利益を上げながらも、リスクを取って新しい事業にチャレンジし続けることが必要。

新しい企業価値の3つの指標

公益資本主義は、次の3つの指標で企業の価値を測ります。それぞれは互いに密接に関係しあっているため、この3つをバランスよく追及しながら発展していく企業が理想です。

- ① **富の分配における公平性** — 企業が事業によって得た富を、どのように分配しているのかを示す指標。株主と経営陣が利益を独占する株主資本主義とは異なり、公益資本主義の下では、全ての「社中」に公平に分配しなければならない。
- ② **経営の持続性** — 「会社は株主のもの」という考え方は、短期の利益や株価上昇ばかりを追求する。過度な株主還元を繰り返せば、やがて企業は体力を失い、持続的な成長などとてもできない。松下幸之助の「ダム経営」のように、突然の危機が生じて、従業員や会社を守るだけの内部留保や流動資産を持つておくことは企業にとって極めて重要なことであり、「経営の持続性」を増強できる。
- ③ **事業の改良改善性** — 企業は、変化に対応できる柔軟性を維持していなければならない。成功体験を持つ企業ほど、商環境の変化に対応する柔軟性を失い、新しい業態への転換が難しくなる。

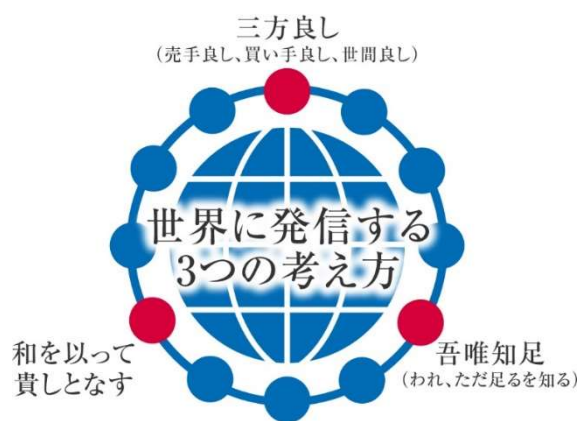
PICCCについて

一般社団法人公益資本主義推進協議会＝PICCC（Public Interest Capitalism Council）とは、公益資本主義を全国に広め、世の中を変えるためのきっかけをつくる活動を推進する協議会です。

公益資本主義の考えに沿った正しい企業の在り方＝「王道経営」を学び、それを実際の事業活動の中で実践することで社業を伸ばし、その有用性について実証していくこと。そして、公益資本主義に賛同する企業経営者を数多く育成・輩出していくことをミッションとしています。

PICCCのビジョン

限界が見えてきた現資本主義に成り変わる、新しい日本発の資本主義＝公益資本主義を世界に発信し、地球益に貢献する。



PICCC 団体概要

名称：	一般社団法人公益資本主義推進協議会	
設立：	平成 26 年 1 月 27 日	
所在地：	東京都渋谷区神宮前 5 丁目 52 番 2 号	
目的等：	諸外国から真に尊敬される日本づくりの実現に向けての活動	
会員数：	251 社（2017 年 12 月末日現在）	
支部等：	宮城支部／東京支部／愛知支部／大阪支部／福岡支部／栃木支部設立準備委員会／広島設立準備委員会	
役員等：	最高顧問	原 丈人
	相談役	大島 賢三
	相談役	川原 正孝
	会長（代表理事）	大久保 秀夫
	副会長（理事）	田中 勇一
	理事	阿比留 正弘
	理事	日田 春光
	理事	前川 洋一郎
	監事	佐藤 栄作

事業の概況について

設立から体制づくり

PICC は、諸外国から真に尊敬される日本づくりの実現に向け活動しています。2014 年の設立当初は、会長である大久保秀夫を中心に日本全国を回り、次世代を担う若手経営者に向けて、現在の資本主義の問題点、企業の本来の在り方、人としての在り方、PICC の目指すこと等について啓発活動を中心に取り組んでまいりました。この結果、全国で PICC のビジョンに賛同する企業に入会していただき、組織の基盤をつくることができました。

2016 年には、会員数が一定数を越えた地域に支部を設立し、各地域で具体的活動を展開できる組織作りを行いました。現在は、宮城・東京・愛知・大阪・福岡に支部が設置されています。また、福島においても地域会員の熱心な活動により、設立準備委員会の立ち上げが視野に入ってきました。既存の広島・栃木と共に、次の支部化に向けて組織づくりや新規会員の獲得に取り組んでいます。

- ✓ 宮城支部
- ✓ 東京支部
- ✓ 愛知支部
- ✓ 大阪支部
- ✓ 福岡支部
- ✓ 栃木支部設立準備委員会
- ✓ 広島支部設立準備委員会
- ✓ 福島支部設立準備委員会（予定）



各支部には「100 年企業研究委員会」「教育支援委員会」「途上国支援委員会」「地域活性化支援委員会」「会員交流委員会」の 5 つの委員会が立ち上げられ、公益資本主義について学び、それを実践する活動への取り組みをスタートしました。しかし、大きな活動項目は決めていたものの具体的なプランは一から作り上げていく必要があったため、各地域や委員会によってその進捗はばらつきがある状況です。

2017 年のテーマと活動

このような発展途上にある中、昨年・一昨年は新規会員の積極的な獲得は行わず、既存会員が公益資本主義を学び、実践するための環境づくりに専念しました。

特に 2017 年は「具体的活動の推進とコンソーシアム構築」をテーマに掲げ、支部活動の強化、そして各地域において協業できるパートナーとのコンソーシアム構築に取り組んでいくことを決めました。

この方針に沿って活動した結果、支部毎に設けられた各委員会を中心に「出前授業」や「100年企業訪問」「在り方勉強会」等の活動が展開され、試行錯誤を繰り返しながらも着実に活動実績を積み重ねてまいりました。また、会全体で取り組んでいる活動以外にも、各支部がそれぞれの地域で必要と判断した独自の取り組みも増えており、活動の多様化も確認することができています。

一方で、残念ながら「本業が忙しくて参加できない」「趣旨には賛同するが自身の手で活動をつくっていくことは難しい」等の理由で退会する会員も出てきました。会の方針として、本当に活動に参加できる会員メンバーによる筋肉質の組織を志向した結果、会員数は昨年より158社減少し251社となりました。

新たな活動、マイコミュニティフォーラム

PICCの新たな活動として、2016年12月から地域の若者に気付きを与える「マイコミュニティフォーラム」をスタートさせました。1年間で全国10カ所での開催実績を重ねており、参加者から高い満足度評価をいただけるイベントが提供できるようになってきています。

これは支部会員が中心となり、村尾信尚氏、大島賢三氏、館逸志氏らの世話人、そして各地域の学校、学生、議員、主婦、NPO、社会企業、地域活性学会等、さまざまな関係者とコンソーシアムを構築できたことが要因であると考えています。2018年度も引き続き、宮城・東京・愛知・大阪・広島・福岡で各1回ずつ開催する計画です。



2017年度の業績概況

このような活動を行った結果、2017年度における業績は次の通りとなりました。

経常収益は前期に比べ478万円増加し2,041万円。主な収益は、支部所属会員を対象としている月会費です。会員による銀行口座、もしくはクレジットカード登録が進んだ結果、毎月の会費収入が安定してきました。

この収入の一部は、各支部が自主的かつ組織的に、本会主旨の活動を展開していく上で必要となる支部活動費として活用されています。また本部においても、会員や支部会計を管理するためのシステム整備・運用、各種会議の開催、広報活動等の財源としています。

収益が増えた一方、費用については事業費および管理費共に前期とほぼ変わらなかったため、前期は268万円の損失でしたが、今期は156万円の利益へ黒字回復することができました。

2017年度 決算報告

2017年度 合計貸借対照表 (税込・累計)			
2017年 1月 1日から2017年12月31日まで			
一般社団法人公益資本主義推進協議会			
一般会計			
科 目	本部	支部合計	合 計
小口(東京支部)	66,200	0	66,200
小口(宮城支部)	28,760	0	28,760
小口(大阪支部)	18,995	0	18,995
小口(福岡支部)	110,000	0	110,000
普通預金(本部)	4,655,337	0	4,655,337
普通(東京支部)	1,883,976	0	1,883,976
普通(愛知支部)	659,440	0	659,440
普通(宮城支部)	590,843	0	590,843
普通(大阪支部)	1,858,508	0	1,858,508
普通(福岡支部)	557,346	0	557,346
現金預金合計	10,429,405	0	10,429,405
未収会費	1,060,000	0	1,060,000
未収金	0	0	0
前払金	27,000	0	27,000
前払費用	178,848	0	178,848
仮払金	0	0	0
流動資産合計	11,695,253	0	11,695,253
基本財産合計	0	0	0
特定資産合計	0	0	0
その他固定資産合計	0	0	0
固定資産合計	0	0	0
資産合計	11,695,253	0	11,695,253
未払金	752,854	0	752,854
預り金	18,378	0	18,378
流動負債合計	771,232	0	771,232
固定負債合計	0	0	0
負債合計	771,232	0	771,232
指定正味財産合計	0	0	101,151
一般正味財産	5,197,483	5,726,538	10,924,021
正味財産合計	10,924,021	0	10,924,021
負債及び正味財産合計	11,695,253	0	11,695,253

2017年度 合計正味財産増減計算書（税込・累計）

2017年 1月 1日から2017年12月31日まで

一般社団法人公益資本主義推進協議会

一般会計

科 目	本 部	支 部 合 計	合 計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取入金	260,000	0	260,000
受取会費(年会費)	3,660,000	0	3,660,000
受取会費(月会費)	14,520,000	0	14,520,000
内振支部活動費	-6,559,000	6,559,000	0
事業収益	0	748,000	748,000
会長塾収益	0	0	0
講演会等収益	0	748,000	748,000
受取寄附金	0	101,151	101,151
雑収益	574,077	550,038	1,124,115
受取利息	41	38	79
雑収益	574,036	550,000	1,124,036
経常収益計	12,455,077	7,958,189	20,413,266
(2) 経常費用			
事業費	6,189,991	6,578,393	12,768,384
支払報酬	97,200	0	97,200
諸謝金	0	651,245	651,245
旅費交通費	2,438,644	307,310	2,745,954
什器備品費	4,436	0	4,436
消耗品費	127,872	24,050	151,922
事務用品費	6,480	9,742	16,222
通信運搬具	10,862	18,149	29,011
システム管理費	116,640	0	116,640
渉外費	19,519	10,400	29,919
会議費	444,921	365,634	810,555
印刷製本費	0	636,151	636,151
広報費	12,960	285,374	298,334
会場費	2,446,659	2,470,332	4,916,991
支払手数料	345,328	33,966	379,294
支払保険料	14,025	36,404	50,429
研修費	3,600	0	3,600
業務委託費	0	1,327,485	1,327,485
支払寄附金	0	36,151	36,151
租税公課	56,400	1,000	57,400
雑費	44,445	365,000	409,445
管理費	6,086,899	0	6,086,899
支払報酬	21,600	0	21,600
旅費交通費	280,803	0	280,803
什器備品費	40,300	0	40,300
消耗品費	14,310	0	14,310
事務用品費	14,526	0	14,526
通信運搬具	8,106	0	8,106
システム管理費	797,904	0	797,904
渉外費	150,000	0	150,000
会議費	14,400	0	14,400
広報費	4,269,426	0	4,269,426
支払手数料	11,124	0	11,124
諸謝金	50,000	0	50,000
研修費	15,000	0	15,000
租税公課	10,600	0	10,600
顧問料	388,800	0	388,800
経常費用計	12,276,890	6,578,393	18,855,283
評価損益調整前当期増減額	178,187	1,379,796	1,557,983
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	178,187	1,379,796	1,557,983
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前一般正味財産増減額	178,187	1,379,796	1,557,983
法人住民事業税	70,000	0	70,000
当期一般正味財産増減額	108,187	1,379,796	1,487,983
一般正味財産期首残高	5,089,296	4,346,742	9,436,038
一般正味財産期末残高	5,197,483	5,726,538	10,924,021
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	5,197,483	5,726,538	10,924,021

2017年度 事業別正味財産増減計算書 (税込・累計)

2017年 1月 1日から2017年12月31日まで

一般社団法人公益資本主義推進協議会

一般会計

科 目	法人管理	会員事業	会長塾	講演会等	東京支部	愛知支部	宮城支部	大阪支部	福岡支部	合 計
Ⅰ 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1) 経常収益										
受取入会金	0	260,000	0	0	0	0	0	0	0	260,000
受取入会金	0	260,000	0	0	0	0	0	0	0	260,000
受取会費	0	18,180,000	0	0	0	0	0	0	0	18,180,000
正会員受取会費	0	18,180,000	0	0	0	0	0	0	0	18,180,000
内振支部活動費	0	-6,559,000	0	0	1,994,000	1,116,000	1,129,000	1,504,000	816,000	0
内振支部活動	0	-6,559,000	0	0	1,994,000	1,116,000	1,129,000	1,504,000	816,000	0
事業収益	0	0	0	0	184,000	91,000	1,000	237,000	235,000	748,000
講演会等収益	0	0	0	0	184,000	91,000	1,000	237,000	235,000	748,000
受取寄付金	0	0	0	0	65,000	0	0	0	36,151	101,151
受取寄附金	0	0	0	0	65,000	0	0	0	36,151	101,151
雑収益	41	509,236	0	64,800	230,014	7	320,005	10	2	1,124,115
受取利息	41	0	0	0	14	7	5	10	2	79
雑収益	0	509,236	0	64,800	230,000	0	320,000	0	0	1,124,036
経常収益計	41	12,390,236	0	64,800	2,473,014	1,207,007	1,450,005	1,741,010	1,087,153	20,413,266
(2) 経常費用										
事業費	0	4,360,424	0	1,829,567	2,338,289	1,268,953	1,612,521	938,823	419,807	12,768,384
支払報酬	0	0	0	97,200	0	0	0	0	0	97,200
諸謝金	0	0	0	0	180,000	268,105	33,411	169,729	0	651,245
旅費交通費	0	1,636,014	0	802,630	118,150	0	22,400	166,760	0	2,745,954
什器備品費	0	0	0	4,436	0	0	0	0	0	4,436
消耗品費	0	127,872	0	0	0	794	0	23,256	0	151,922
事務用品費	0	6,480	0	0	7,582	0	2,160	0	0	16,222
通信運搬具	0	10,862	0	0	0	0	18,149	0	0	29,011
システム管理費	0	116,640	0	0	0	0	0	0	0	116,640
渉外費	0	19,519	0	0	0	0	10,400	0	0	29,919
会議費	0	343,899	0	101,022	72,000	40,984	185,520	67,130	0	810,555
印刷製本費	0	0	0	0	124,200	20,472	458,963	14,156	18,360	636,151
広報費	0	0	0	12,960	0	60,040	50,274	175,060	0	298,334
会場費	0	1,718,725	0	727,934	847,424	286,300	695,168	317,440	324,000	4,916,991
支払手数料	0	332,368	0	12,960	6,264	12,258	8,856	5,292	1,296	379,294
支払保険料	0	0	0	14,025	30,184	0	6,220	0	0	50,429
業務委託費	0	0	0	0	777,485	550,000	0	0	0	1,327,485
研修費	0	3,600	0	0	0	0	0	0	0	3,600
支払寄附金	0	0	0	0	0	0	0	0	36,151	36,151
租税公課	0	0	0	56,400	0	0	1,000	0	0	57,400
雑費	0	44,445	0	0	175,000	30,000	120,000	0	40,000	409,445
管理費	6,086,899	0	0	0	0	0	0	0	0	6,086,899
支払報酬	21,600	0	0	0	0	0	0	0	0	21,600
旅費交通費	280,803	0	0	0	0	0	0	0	0	280,803
什器備品費	40,300	0	0	0	0	0	0	0	0	40,300
消耗品費	14,310	0	0	0	0	0	0	0	0	14,310
事務用品費	14,526	0	0	0	0	0	0	0	0	14,526
通信運搬具	8,106	0	0	0	0	0	0	0	0	8,106
システム管理費	797,904	0	0	0	0	0	0	0	0	797,904
渉外費	150,000	0	0	0	0	0	0	0	0	150,000
会議費	14,400	0	0	0	0	0	0	0	0	14,400
広報費	4,269,426	0	0	0	0	0	0	0	0	4,269,426
支払手数料	11,124	0	0	0	0	0	0	0	0	11,124
諸会費	50,000	0	0	0	0	0	0	0	0	50,000
研修費	15,000	0	0	0	0	0	0	0	0	15,000
租税公課	10,600	0	0	0	0	0	0	0	0	10,600
顧問料	388,800	0	0	0	0	0	0	0	0	388,800
経常費用計	6,086,899	4,360,424	0	1,829,567	2,338,289	1,268,953	1,612,521	938,823	419,807	18,855,283
評価損益調整前当期増減額	-6,086,858	8,029,812	0	-1,764,767	134,725	-61,946	-162,516	802,187	667,346	1,557,983
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-6,086,858	8,029,812	0	-1,764,767	134,725	-61,946	-162,516	802,187	667,346	1,557,983
2. 経常外増減の部										
(1) 経常外収益										
経常外収益計										
0										
(2) 経常外費用										
経常外費用計										
0										
当期経常外増減額										
0										
税引前一般正味財産増減額	-6,086,858	8,029,812	0	-1,764,767	134,725	-61,946	-162,516	802,187	667,346	1,557,983
法人住民事業税	70,000	0	0	0	0	0	0	0	0	70,000
当期一般正味財産増減額	-6,156,858	8,029,812	0	-1,764,767	134,725	-61,946	-162,516	802,187	667,346	1,487,983
一般正味財産期首残高	1,436,570	5,943,740	5,303,357	-7,594,371	1,806,262	660,921	778,708	1,100,851	0	9,436,038
一般正味財産期末残高	-4,720,288	13,973,552	5,303,357	-9,359,138	1,940,987	598,975	616,192	1,903,038	667,346	10,924,021
Ⅱ 指定正味財産増減の部										
当期指定正味財産増減額										
0										
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	-4,720,288	13,973,552	5,303,357	-9,359,138	1,940,987	598,975	616,192	1,903,038	667,346	10,924,021

財務諸表に関する注記

1. 重要な会計方針
公益法人会計を適用しております。
 - (1) 棚卸資産の評価基準および評価方法
棚卸資産はございません。
 - (2) 固定資産の減価償却の方法
固定資産はございません。
 - (3) 引当金の計上基準
引当金はございません。
 - (4) 消費税等の会計処理
税込方式によっております。

2. 特定資産の増減額およびその残額、財源等の内訳
特定資産はございません。

3. 固定資産の取得価額、減価償却累計額および当期末残高
固定資産はございません。

4. 実施事業等会計にかかわる資産
実施事業等会計にかかわる資産はございません。

5. 重要な後発事象
ございません。

付属明細書

1. 特定資産の明細
財務諸表の注記に関する記載の通りです。

2. 引当金の明細
財務諸表の注記に関する記載の通りです。

2018年のテーマと課題

日本経済は活況と言われている一方、少子高齢化、事業承継問題、労働力の不足、消費税率引き上げ、東京五輪終了など、多くの不安要素も確認することができます。

万一この不安が現実となり、厳しい経済環境が訪れた場合、企業が生き残っていくためには、会社を率いるトップとして進むべき方向性を決断できる力が不可欠と考えます。PICC ではこれを「王道経営」と呼んでいます。つまり経営者として、企業としての正しい「在り方」を持った上で、成功する経営者の「やり方」を実践する、正しさと強さを志向する経営です。

今後、厳しい景況を迎えても乗り越えていくための羅針盤としてもらえるよう、PICC 会員には改めて「王道経営」について学んでもらうための新たな教育メニューを提供してまいります。

ただし、PICC 会員が「王道経営」をしっかりと学び、自社で実践することで不景気の時代を生き残ることができたとしても、社会全体が成長できなければ意味がありません。「自分さえよければ」という考え方は、公益資本主義ではないからです。

また、日本中の企業の経営状況が悪くなり、新しい事業への挑戦をやめてしまう、海外進出をやめてしまう、社会貢献をやめてしまう、こんな時代になってしまっただけは、PICC の志向する公益資本主義は「きれいごと」とされてしまい、絶対にこれ以上掲げることができないと考えています。

そうならないためにも、会員の大切なパートナー企業や取引先等に、今の内から「王道経営」を掲げていくことは PICC のミッションの一つであると考えています。一人でも多くの経営者に公益資本主義を知ってもらい、共感していただいた方を新会員として迎え入れ、共に学んで強い企業を増やしていくことが、これからの社会にとっても、PICC にとっても重要であると考えています。

そのため、2018 年は新たな会員企業を迎え入れ、公益資本主義を志向する仲間を増やしていくこと、そして多くの仲間と共により多くの質の高い実践活動に取り組める体制をつくることを目指し、次の通りテーマと課題を設定いたしました。

2018年 PICC テーマ

全会員が「王道経営」を真に学び、発信することで、
公益資本主義を実践できる仲間を倍増していく。

2018年 PICC が取り組む課題

① 「王道経営」、特に「在り方」を自ら語れるようになる

2018年は、「在り方」についてより深く学んでいきます。

自社の経営を強化するためにも、新たな会員を増やすためにも、マイコミュニティフォーラムで知り合った学生の教育をするためにも不可欠となる取り組み。将来的には全ての会員が「在り方」について、非会員向けに啓発できるレベルまで成長することを目指します。

② より魅力的な PICC へ、選択と集中&発信

これまで PICC ではいろいろな取り組みに挑戦してきました。現状は、均等なプライオリティで打ち出しているものの、実際には取り組み内容やレベルにばらつきがあります。

これまで打ち出してきた取り組み自体は、全て PICC にとって必要なものであり否定も廃止もする予定はありません。しかし、実態に合わせて2018年に強化すべき活動を各支部が選択し、活動・人員・予算を集中させてまいります。また、実施した活動についてはきちんと PR することも課題です。必要に応じて支部組織も見直しながら対応してまいります。

③ PICC 会員倍増への取り組み

2017年は会員数が409社→251社に減少しました。これは新規会員の勧誘活動を停止していたため、また期初から取り組んできた「本当に活動する会員」だけの組織に絞ってきたためです。その峻別はほぼ完了しており、2018年は再び会員数を増やしていくことに取り組んでまいります。具体的な目標として、「会員1社が新規会員を1社勧誘できる体制を築く」を掲げています。

PICCCの委員会活動 会員による「公益資本主義」の実践

PICCC 各支部では、「100年企業研究委員会」「教育支援委員会」「途上国支援委員会」「地域活性化支援委員会」「会員交流委員会」の5つの委員会が立ち上げられ、さまざまな活動に取り組んでいます。

100年企業研究委員会

世界で最も多くの100年企業が存在する日本。これらの企業から経営の本質を学び、自らの経営に取組むとともに、日本の経営の在り方を広く推奨していく委員会です。100年企業の視察や、経営者をお招きした勉強会などを行っています。

- 書物等を活用した研究
- 実際の100年企業への訪問
- 会員企業の100年ビジョンづくり



主な活動実績

実施日	地域	概要
• 2017/1/17	東京	創業100年の屋形船で東京支部の定例会を開催
• 2017/4/18	宮城	前川洋一郎 presents 100年企業訪問ツアー 株式会社一ノ蔵（鈴木 整 社長、浅見 周平 専務）
• 2017/4/22	大阪	松賢堂講義（中国思想家編）「墨子から学ぶ 人と企業への愛」
• 2017/6/10	大阪	松賢堂講義（中国思想家編）「孫子に学ぶ 生き残る道」
• 2017/7/18	大阪	講演会「老舗学」&「荒川化学工業」（荒川化学工業 末村 長弘 相談役、PICCC 前川 洋一郎 理事）
• 2017/8/22	宮城	勉強会「公益資本主義が生み出す100年企業の在り方とは」 （株式会社一ノ蔵 鈴木 整 社長）
• 2017/8/26	大阪	松賢堂講義（中国思想家編）「荀子 ～人間の可能性を信じぬいた男～」
• 2017/9/12	東京	前川洋一郎 presents 100年企業訪問ツアー 北星鉛筆株式会社（杉谷 和俊 社長）
• 2017/10/10	東京	講演会「公益資本主義と100年企業の老舗学」（前川 洋一郎 理事）
• 2017/10/21	大阪	松賢堂講義（中国思想家編）「莊子 ～真に自由な心を求めて～」
• 2017/10/31	愛知	講演会「矢場とんの歴史、取り組み、経営方針」（鈴木 拓将 社長）
• 2017/11/7	宮城	100年企業訪問ツアー 株式会社吉岡屋（吉岡 忠 社長、吉田 修 専務） 「吉岡屋の歴史・沿革、国分町の成り立ちと吉岡屋の成長」

地域活性化支援委員会

日本創生の原点となる地域振興。さまざまな分野から地域の活性化を研究・実践する委員会です。NPO 法人『元気な日本をつくる会』が展開する官民連携事業等、地域活性化に取り組む他団体との連携も含め、公益資本主義の考えを活かした地域活性化を推進しています。

- 地域課題や他地域における活性化事例の研究
- 地域活性化に取り組む団体との連携
- 地域活性化学会との連携
- 地域の学生／企業／自治体／学校等との連携
- 地域活性化のための企画／実行



主な活動実績

実施日	地域	概要
• 2017/1/14	愛知	東京ドーム・ふるさと祭りへの出店（パワフル南知多推進協議会との連携）
• 2017/1/16	愛知	浅草・全国観光物産見本市への出店（パワフル南知多推進協議会との連携）
• 2017/6/24	大阪	地域活性化活動の視察 阿倍野区昭和町
• 2017/6/26	東京	児童養護施設見学・二葉むさしが丘
• 2017/7/3	東京	児童養護施設訪問・目黒若葉寮
• 2017/8/7	東京	児童養護施設以外の支援の方法を見学・シモキタナリ
• 2017/9/27	東京	児童養護施設以外の支援の方法を見学・ゆずりは
• 2017/10/20	宮城	健康経営勉強会の開催（経済産業省の協力による）

※ 上記の他、支部によってはマイコミュニティフォーラムの企画・運営について中心的に取り組んでいます。

教育支援委員会

子供は未来の財産です。学力の低下に加え、夢や希望が持てない日本の子ども達に経営者からの視点で教育を推進する委員会です。教育と子育ては地域ぐるみで行うことと考え、「出前授業」などの活動を積極的に展開しています。「働くとはどういうことか?」「社会における自社の役割」等をテーマに、企業経営者が自身の経験や想いを直接伝えること



ことで、これから社会に出てゆく子供たちに働くことの意味や将来の夢を考えるきっかけ

けを作ることが狙いです。2017年は22校2500名の学生に向け、出前授業を行っています。

- 出前授業の実施
- 職場体験の受け入れ
- マイコミュニティフォーラムで知り合った学生への教育
- 新たな教育支援手法の研究

主な活動実績

実施日	地域	概要
• 2017/1/9	愛知	ミライダイアログ（バスツアー内講座）
• 2017/1/18	大阪	出前授業 ECC 学園高等学校
• 2017/1/29	福島	立志式講演 湯川村立湯川中学校
• 2017/1/30	大阪	出前授業 エール学園
• 2017/2/12	大阪	出前授業 堺市お仕事セミナー
• 2017/2/23	東京	出前授業 藤沢市立第一中学校
• 2017/3/7	愛知	出前授業 名古屋経済大学高蔵高等学校
• 2017/6/30	愛知	職業講座 瀬戸市立水野中学校
• 2017/7/1	福岡	キャリア教育フォーラム参加
• 2017/9/7	福岡	職業体験 苅田町立新津中学校
• 2017/9/8	福岡	職業体験 福岡市立吉塚中学校
• 2017/9/15	東京	出前授業 新宿区立落合第二中学校
• 2017/10/5	福岡	職業体験 福岡市立多々良小学校
• 2017/10/14	東京	働くを考えるセミナー（大学生向け出前授業）
• 2017/11/1	愛知	職業講座 武豊町立武豊中学校
• 2017/11/7	福岡	集団面接 苅田町町立新津中学校
• 2017/11/14	愛知	職業講座 瀬戸市立南山中学校
• 2017/11/15	大阪	出前授業 大石田町立大石田中学校
• 2017/11/21	福岡	職業体験 福岡市立香椎浜小学校
• 2017/11/21	宮城	勉強会「出前授業講師のススメ」（NPO 法人ハーベスト 山崎 賢治 代表理事）
• 2017/11/24	東京	出前授業 藤沢市立鶴沼中学校
• 2017/11/25	東京	働くを考えるセミナー（大学生向け出前授業）
• 2017/12/6	福岡	職業体験 福岡市立東吉塚小学校
• 2017/12/13	福岡	インタビュー学習 福岡市立香椎浜小学校
• 2017/12/16	東京	働くを考えるセミナー（大学生向け出前授業）
• 2017/12/19	宮城	出前授業 石巻市立青葉中学校

※ 上記の他、支部によってはマイコミュニティフォーラムの企画・運営について中心的に取り組んでいます。

途上国支援委員会

国の基本は教育です。経済や文化の領域で将来のパートナーとなる途上国に対して、教育や自立支援をサポートしています。公益財団法人『CIESF』と連携した教師団の派遣や幼小中高一貫校設立など、途上国支援の在り方を学び、実践します。

- CIESF 支援
- 途上国訪問
- 途上国進出の検討／実施
- 留学生受け入れ
- 他の途上国支援団体の研究
- CRM 手法の研究／実践



主な活動実績

実施日	地域	概要
• 2017/2/7	福岡	カンボジア視察 カンボジア・CIESF の実態を知る
• 2017/4/19	東京	CRM インタビュー 株式会社オピカ
• 2017/5/15	愛知	社会イノベーターフォーラムに参加
• 2017/6/26	愛知	カンボジア視察 プノンペンツアー2017
• 2017/6/27	東京	CRM インタビュー 株式会社コスモクオーク
• 2017/8/28	宮城	カンボジア視察 CIESF、PSE 孤児院、トゥールスレン収容所 他
• 2017/8/28	東京	CRM インタビュー キリンビバレッジバリューベンダー株式会社
• 2017/8/30	宮城	ベトナム視察 REACH 本社
• 2017/11/6	東京	講演会後援「子どもたちの笑顔のために ～私達は微力だが、無力ではない～」 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス創始者 鬼丸昌也氏
• 2017/11/27	宮城	新興女性企業家フォーラムに参加

会員交流委員会

会員活動の基盤となる公益資本主義。その考え方を学び、経営者本来のあり方を身につける「在り方勉強会」の普及を図る委員会です。また、定例会を通じて会員相互の交流（親睦・ビジネス）を促すとともに、全国各地の支部との交流会も開催しています。

- 「在り方」「やり方」勉強会
- 魅力ある定例会の企画／運営
- 会員企業の魅力発掘／発信
- 会員企業の本業支援
- 会員交流



主な活動実績

実施日	地域	概要
・2017/1/28	福島	勉強会「逆境を乗り越えた！！倒産のピンチからでも3年で4倍に伸ばす経営」・ 「学ぶに如かず」(㈱せいふうケア 太田大社長・㈱ばるる 佐藤康則社長)
・2017/1/28	福岡	在り方勉強会「決断/CRM/BOP/成功者に共通する8つの法則」
・2017/2/24	福島	勉強会「ピアノヒーリング」(Diva 佐藤玲菜氏)
・2017/2/25	福岡	やり方勉強会「100年ビジョン」
・2017/3/4	福岡	在り方勉強会「18の実践項目/25の思考と行動」
・2017/3/11	福岡	在り方勉強会「18の実践項目/25の思考と行動」
・2017/3/18	福岡	在り方勉強会「決断/CRM/BOP/成功者に共通する8つの法則」
・2017/3/22	福島	勉強会「幸せの創り方」(大関華織氏)
・2017/3/25	福岡	やり方勉強会「100年ビジョン」
・2017/3/25	福岡	在り方勉強会「18の実践項目/25の思考と行動」
・2017/4/3	愛知	お花見交流会
・2017/4/4	福岡	お花見(天神中央公園)
・2017/4/22	福岡	やり方勉強会「100年、30年、10年後のイメージ」
・2017/4/24	福島	勉強会「ヨーガの導きを得て」(渡邊薫氏)
・2017/5/26	福島	勉強会「剛・ピストル・ゆず」(㈱ばるる 佐藤康則社長)
・2017/5/27	福岡	やり方勉強会「100年、30年、10年後のイメージ」
・2017/6/13	東京	ダイアログインザダーク研修
・2017/6/23	福島	勉強会「ピアノヒーリング」(Diva 佐藤玲菜氏)
・2017/6/24	福岡	やり方勉強会「3か年事業計画書・組織図」
・2017/7/28	福島	勉強会「私たちを見守る見えない世界の御働き」(大関華織氏)
・2017/7/29	福岡	やり方勉強会「3か年事業計画書・組織図」
・2017/8/5	福岡	在り方「決断/CRM」
・2017/8/6	福岡	バーベキュー大会(佐賀県唐津市浜崎海岸)
・2017/8/22	宮城	全国支部長会議 in 宮城
・2017/8/25	福島	勉強会「日本の障害者福祉のこれまでとこれから」(鈴木康弘氏)
・2017/8/26	福岡	やり方勉強会「現状とのギャップ 課題の抽出、強み、アキレス腱 etc」
・2017/9/30	福岡	やり方勉強会「現状とのギャップ 課題の抽出、強み、アキレス腱 etc」
・2017/9/14	東京	SDGs カードゲーム
・2017/9/22	福島	勉強会「楽しい宇宙の話、エネルギーの話」(村田みちのり氏)
・2017/10/14	福岡	在り方勉強会「決断/CRM/BOP/成功者に共通する8つの法則」
・2017/10/20	宮城	王道経営実践報告会「在り方経営」(㈱サクラボ 早坂啓社長)
・2017/10/20	宮城	マネジメントゲーム
・2017/10/24	福岡	学生主体企業紹介 (㈱タウンズポスト)
・2017/10/27	福島	勉強会「ヨガ&お話し」(渡邊薫氏)
・2017/10/28	福岡	在り方勉強会「18の実践項目/25の思考と行動」
・2017/10/28	福岡	やり方勉強会「現状とのギャップ 課題の抽出、強み、アキレス腱 etc」

- 2017/11/2 福岡 「右手にそろばん、左手にロマン。成長し続ける会社に聞く、
経営者のための財務」セミナー
- 2017/11/5 福岡 九州レインボープライド 2017 に参加
- 2017/11/24 福島 勉強会「時と運命とアカシック、そして記憶の力」(大関華織氏)
- 2017/12/9 福岡 やり方勉強会「自社の強み・弱み/会議のやりかた」
- 2017/12/12 東京 全国支部長会議 in 東京
- 2017/12/19 宮城 王道経営実践報告会「在り方経営」(尙やすらぎ堂 三本菅通次社長)
- 2017/12/19 福島 勉強会「繁栄の法則」(北川八郎氏)

※ 上記の他、各支部では定例会や懇親会を毎月開催しています。

その他の取り組みについてのご紹介

第2回 PICC 優秀事例発表会

2018年3月13日、一般社団法人公益資本主義推進協議会は社員総会を開催しました。全代議員にご出席いただき、議案として上程していた平成29年度決算の件、役員選任の件、定款変更の件は原案どおり承認可決いただいております。最後には、大久保会長から今年度の方針についても発表されました。



また、総会後は昨年に引き続いて2回目となる優秀事例発表会を開催し、7つの分野別に選抜された活動事例について会員企業によるプレゼンテーションが行われました。

【優秀事例を発表いただいた会員の皆様】

1. 公益資本主義の実践部門
福岡支部 飯田 剛也 様（株式会社タウンズポスト）
2. 100年企業研究部門
宮城支部 尾形 哲也 様（株式会社フロム・インパクト）
3. MYCO フォーラム部門
宮城支部 野地 数正 様（株式会社 IDENTITY）
4. MYCO フォーラム部門
東京支部 山口 勝宏 様（株式会社 FIS ソリューションズ）
5. 地域活性化支援部門
大阪支部 矢野 浩一 様（クジラ株式会社）
6. 教育支援部門
宮城支部 鈴木 嵩弘 様（株式会社サンチャイルド）
7. 会員交流部門
福岡支部 古屋 純平 様（株式会社レジャーリンク）
8. 途上国支援部門
東京支部 長谷川 高志 様（株式会社セイファート）

全国から多数寄せられた事例の中から厳選されたただけあり、いずれの事例も今後の活動の指針となる素晴らしいものばかり。「PICC 活動は昨年より確実にレベルアッ

ブしている」と、参加した全会員が確信できるレベルの高いプレゼンテーションが披露されました。

その中で最も優れたプレゼンターとして、株式会社 IDENTITY の野地 数正さん（宮城支部）に「2017 PICC MVP 賞」が贈呈されました。野地さんには、宮城支部主催で実施しているマイコミュニティフォーラムについて、宮城支部での活動実勢、そこから生まれた YouthQuake な波及効果についてわかりやすくご紹介いただいています。

※YouthQuake：若者による社会的地殻変動の意。2017年のオックスフォード英語辞書「今年の英単語」に選ばれた合成語。



「2017 PICC MVP 賞」を受賞された野地数正さんより

PICC は非常に崇高な理念に向かって活動しているため、日々の活動でどれだけ目指すところに近づくことができたのか？ どのような成果につながっているのか？ なかなか感じるのが難しいという方もいらっしゃると思います。いま宮城支部では、それをどうしていけばいいか？ という話を話合っています。

マイコミュニティフォーラムを含め、一つ一つは地道な活動ばかりだと思います。でも、それは決して無意味なことではありません。今回、YouthQuake な事例として紹介させていただいたこと以外にも、私たちの活動やそこで投げかけた言葉によって、その後の人生が大きく変わったという人は、実はたくさんいると思っています。私自身、PICC やここにいる仲間との出会いによって大きく人生が変わりました。

ですから、活動成果がすぐに見えないからやめたり諦めたりするのではなく、小さな活動でも長いスパンで見たときにどのように成長していくのか？ そんなことを楽しみにしながら今後も活動を続けていきたいと思っています。

また、優秀事例発表会にエントリーされた全事例を対象に、予選会で獲得した合計得点が最も高かった宮城支部には「2017 年度 最優秀支部賞」が贈られています。昨年度に引き続いての受賞で、二連覇となります。



「最優秀支部賞」を受賞された宮城支部を代表し、三本菅支部長より

2017年、皆で力を合わせてやってきた結果、最優秀支部賞を受賞することができ本当に嬉しく思います。私自身には大した力はありませんが、3人の副支部長が支えてくれました。

去年も宮城支部はこの賞をいただいておりますが、それに満足することはありませんでした。「自分たちは何のためにこの活動をしているのか?」「まだまだできることがあるだろう」と、皆で毎月のように議論を交わしてきました。その結果として、今回も賞をいただけたのだと思っています。

来年の3月、この最優秀支部賞を三連覇できるよう、また他の支部の皆さんの模範になれるよう、2018年も頑張っていきたいと思います。どうもありがとうございました。

その後は懇親会も催され、全国から集った会員同士、そして役員も含め活発に親交がはかられ、これからのPICC活動をさらに発展させていくべく、決起をいたしました。

2018年度も公益資本主義を学び、実践する経営者団体として、①富の分配における公平性、②経営の持続性、③事業の改良改善性を追求していくことに、会員一同全力で取り組んでまいります。



新「在り方」勉強会について

PICC 会員の第一の役割は、「王道経営」を実践し、自社の利益が出るようにすることです。これができるようになって初めて「三方よし」、社員とその家族・顧客・取引先・株主・地域社会に幸せを分配することが可能になるからです。

PICC が昨年行った調査によると、会員企業の中でも残念ながらまだ「王道経営」についての理解も実践も十分とは言えない状態にあることがわかりました。PICC の全会員が「王道経営」について理解・実践するためにも、「王道経営」をより多くの人に拡げていくためにも、2018 年度はまず経営者としての「在り方」について十分理解し、会員自らが語れるようになることに取り組んでまいります。それが会員企業の発展はもちろん、PICC の発展にもつながると考えています。

「できていない」という回答が多かった王道経営項目

1. 時間をかけて本当の後継者の育成するためにナンバー 2 がいる	4.82
2. 社長の仕事をブラックボックスにしないためにナンバー 2 がいる	5.33
3. 健康診断の指標のようなプロセス管理の実施体制	5.44
4. アイドルタイムを徹底的に排除している	5.47
5. 日本市場にとどまらず世界の成長市場を注目している	5.49

(出典：2017 年 6 月実施、会員向けアンケートより)

これまでは会長である大久保が自ら全国の支部を回り、勉強会を主催してきました。しかし、今後は大久保から直接学んだ経営者が講師となり、各地の新しい会員、若い経営者に「王道経営」を教えてまいります。1 社でも多くの企業経営者が「王道経営」を学び、自社の経営強化に活かしていただけることを期待しています。

新「在り方」勉強会のカリキュラム

- ・(第 1 回) 公益資本主義・大久保秀夫のルーツを知る
- ・(第 2 回) 人生で成功するたった一つの方法『決断』
- ・(第 3 回) これからの企業経営のあり方 CRM 編
- ・(第 4 回) これからの企業経営のあり方 BOP 編
- ・(第 5 回) 成功者に共通する 8 つの法則 Part1
- ・(第 6 回) 成功者に共通する 8 つの法則 Part2
- ・(第 7 回) 大久保秀夫流 18 の法則 Part1
- ・(第 8 回) 大久保秀夫流 18 の法則 Part2
- ・(第 9 回) 成功する経営者になる為に必要な 25 の思考と行動 Part1
- ・(第 10 回) 成功する経営者になる為に必要な 25 の思考と行動 Part2

「王道経営の実践」宣言

PICC の定義する「王道経営」とは、経営者として、企業としての正しい「在り方」を持った上で、成功する経営者の「やり方」を実践する、正しさと強さを志向する経営です。これを自社の経営に取り入れ、社業発展に活かしていただくことが、PICC が存在する最大の目的となります。

「王道経営」と一口に言っても、会員各社でそれぞれ取り組むべき経営課題は異なります。2018年に企業としてチャレンジする王道経営の実践目標について会員企業に宣言を作成していただきました。その中から一部を紹介させていただきます。目標を明確にすることで、会員企業の経営やPICC活動がより充実したものとなることを目指します。

特に多く目標設定された実践項目と実践目標（例）

- **人様の役に立つ、喜んでもらえるが事業の根本になっている**
 - 自社の使命を「グッドビジネスを育てる」とし、社会の原動力としての企業が、持続可能なグッドビジネスになるための「課題解決」を徹底的に増やすことを2018年の目標に掲げます。社員、お客様、取引先、地域、未来にとって最適化されたビジネスを社会に増やし継続させることが、真に社会に貢献することであり、それが自社を持続可能なグッドビジネスにする唯一の道であると考えます。（福島会員）
- **独自性のある新しいあたりまえを追及している**
 - これまでは依頼されたものを最大化、サポートすることが仕事となり、受け身の経営となっていました。しかし、「新しい社会の在り方」を追求し、実現するため、2018年度は3つ以上のサービスを設計し、商品として社会にアプローチします。（大阪会員）
- **自社の強みを知り伸ばす努力をしている**
 - ぼんやりとは分かっているが、自社の本当の強みをまだ自信を持って捉えられていません。この強みを自身だけでなく、他のメンバーと共に定義し、さらに深く理解し、メンバー全員が一点の迷いもなく永続的に磨き上げていく覚悟を持ちます。この覚悟をもってお客様と向き合い、お客様からの「ありがとう」を確かなものとし、また、競合の追従を許さぬ競争力を確保します。（宮城会員）
- **常に次の一手を考えている**
 - 日本と自社の取り巻く業界の環境変化を見通して、常に新しいチャレンジをしていかなければなりません。当社の強みとしては販売チャネルの多さ（地場・全国卸・WEB）がありますが、それに新しくカンボジア進出を追加します。目標としては現地法人の事業を開始し、また日本からの輸出も開始します。（広島会員）



PICC の新たな取り組みとして、2016 年 12 月から「マイコミュニティフォーラム」をスタートさせました。代表世話人として、元国連大使の大島 賢三 氏、NEWS ZERO のメインキャスターを務める村尾 信尚 氏、地域活性学会副会長の舘 逸志 氏にご協力いただきながら、日本各地で若者に気付きを与えるためのフォーラムを開催しています。

マイコミュニティフォーラムの目的は、若者の地域に対する意識のスイッチを“オフ”から“オン”にすること。自分たちの力で「国や未来は変えることができるんだ」ということに気付いてもらうため、まずは自分が住んでいる地域でどんな取り組みが行われているか、目を向けてもらい、私の社会のために何かできること、参加してみたいと思えることを見つけてもらうためのヒントを提供したい、そんな思いで企画しております。

各地域の PICC 会員が中心となり、近隣の学校、学生、経営者、NPO、社会企業、政治家等と協力しながら、様々なテーマ・プログラムを提供してまいりました。

はじめに村尾信尚氏から『私の社会をつくるための2つの券』と題した講演があり、「私たちは社会を変える2つの力、投票用紙と日本銀行券を持っている」ということを平易に解説。その後はテーマに沿ったプレゼンやパネルディスカッション等が行われるのが、開始初年度の基本のフォーマットとなっています。回を重ねる度に、一方的に聞くだけではなく、聴衆も一緒に参加できるワークショップ型の取り組みが採用されるパターンが増えました。

講演を通じて、聴衆に自分と地域・社会との関係性について気付きを与えると同時に、自分自身は地域や社会に対してどのようなことができるのかについて考え、発言できる場を提供することで、参加者の満足度が高まっていると考えています。

2017 年 12 月までに全国 6 都市で 10 回開催し、1,282 名の方に参加いただくことができました。

【これまでの開催概要】

① 第1回マイコミュニティフォーラム in 宮城

2016年12月10日(土) 13:00~17:00

場所：常盤木学園高等学校・シュトラウスホール

テーマ：若者の地域参加とスポーツを通じた地域活性

参加者：130名



→ 楽天イーグルスをはじめとしたゲストよりスポーツを通じた地域活性活動について紹介いただき、地元スポーツが地域住民の活力や子どもたちの夢に大きく関わっていることが確認できました。また、その力を活用し、今後の宮城県・東北のさらなる活性化に取り組んでいくことを誓っています。最後に会場の学生に感想を聞いたところ、こちらの意図していたメッセージが共有できていることがわかり、大いに勇気づけられ、今後につながる手応えを感じました。

② 第2回マイコミュニティフォーラム in 東京

2017年1月18日(土) 13:00~17:00

場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター 3F ホール 3A

テーマ：地域(力)で育む子どもの未来、成功の“鍵”は、地域のチームづくり

参加者：140名



→ ゲストパネラーから子育てをしている母親達に実際にどのような問題が起きているのかを紹介してもらい現状を確認しました。その上で、外的解決策として子育ての悩みに応えるための事例、内的解決策として自分自身でどのようなことができるかについて議論しました。そもそも男性と女性の視点には違いがあることを前提に考えること、自分が子どもに全てを教えなくても社会が教えてくれることもあると考えること、自分だけではどうにもならない場合は「助けて」と声をあげることが大切であること等、ヒントとなる考え方を共有することができました。

③ 第3回マイコミュニティフォーラム in 愛知

2017年 2月 25日(土) 13:00~17:00

場所：愛知学院大学 名城キャンパス アガルスタワー10F

テーマ：わたしたちの未来はわたしたちの手で ~若者が地域を元気にする~

参加者：85名



→ 地元愛知のために活動している学生団体（高校生フェスティバル、リニモ沿線合同大学祭実行委員会、名古屋わかもの会議）およびご当地アイドル dela（デラ）に企画段階から協力いただきました。パネルディスカッションでは、各団体から取り組みを紹介していただき、それぞれが抱える悩みや問題点についてパネラーからアドバイスをもらっています。

新たな試みとして取り入れたバズセッションでは、会場のお客さんも一緒になり、参加者全員で「OFF から ON へ」をテーマに議論を交わし、おおいに盛り上がりました。講演やパネルディスカッションで観客が抱いた想いや考えをアウトプットする場を与えたことが、会場全体の一体感や満足感につながったと見えています。

④ 第4回マイコミュニティフォーラム in 大阪

2017年3月25日(土) 13:00~16:45

場所：大阪科学技術センター 8階大ホール

テーマ：全ての学生に贈る幸せな働き方のアドバイス

参加者：80名



→ 学生を中心に「自分の将来をどのように考えていくべきか?」「学生時代にどんな時間の過ごし方をすべきか?」等について考える場としました。パネラーとしてさまざまな分野で活躍されている大人を招き、自身の学生時代を紹介いただきつつ、人生の岐路に際してどのように決断をされてきたのか、いろいろな角度から事例を共有しています。新たな試みとして、スマホでリアルタイムに参加者の意識調査ができる仕組みを導入し、会場全体の参加者意識を醸成することができました。

⑤ 第5回マイコミュニティフォーラム in 福岡

2017年5月20日(土) 13:30~17:00

場所：福岡大学病院メディカルホール

テーマ：「幸せ」「豊かさ」のを見つけ方

～私たちが抱いている閉塞感の答えを見出す～

参加者：275名



→ 世の中の常識・課題・不安（ex. 「主婦はお荷物である」「人材難・採用難・就職難の時代」「障がい者は税金を納める側ではなく使う側である」）に対して、革新を実行している地元企業の取り組みについて紹介することで、公益資本主義への共感が醸成されました。企画の段階から福岡大学の学生にも参加してもらったり、当日の企業紹介プレゼンをしてもらったり、大いに活躍してくれました。早めに準備を進めたことで、300名会場に対してほぼ満席に近い集客に成功しています。

⑥ 第6回マイコミュニティフォーラム in 宮城（予定）

2017年6月17日（土）13:30~16:40

場所：エルパーク仙台 スタジオホール

テーマ：未来をつくる SENDAI 学生会議 ～地域活性って何だ？～

参加者：102名



→ 宮城地区での2回目は『～未来をつくる～ SENDAI 学生会議「地域活性って何だ！？」』をテーマに開催。東北10000人会議、学魂祭実行委員会、高校生連携協議会の他、多くの学生に参加してもらいオープン・スペース・テクノロジーを取り入れたワークショップを中心に実施しました。見ず知らずの老若男女が自由に語り合うことで、多くの気付きを得られる場づくりができました。「知らない人と話すことがこんなに楽しいなんて」という声もあり、若者が社会に目を向けるきっかけづくりができたと捉えています。

⑦ 第7回マイコミュニティフォーラム in 東京

2017年7月22日（土）13:30~17:00

場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター 3F ホール 3A

テーマ：～未来をつくる～ TOKYO 学生会議「集え！君の“今”には価値がある！」

参加者：150名



→ 「国際支援」「地域活性・社会貢献」「こども支援」に取り組んでいる 21 の学生団体が参加。前半は「学生団体見本市」と題し、学生団体への質疑応答を通じ自己 PR をしてもらいました。後半は来場者が全員参加する交流企画として、テーマ別のディスカッションを開催。「お金を稼ぐとは?」「学生のうちにできること、すべきこと」「今の子ども達にしてあげられることとは?」等、自分が話し合いたいテーマ別に 5 人程度のグループを作り、学生も大人も交じって議論しています。

社会のために活動をしている若者がたくさんいることを知り、PICC の目指す地球益、公益社会実現に向けた活動は、確実に次の世代にも継承されていくと勇気づけられるイベントとなりました。

⑧ 第 8 回マイコミュニティフォーラム in 愛知

2017 年 9 月 30 日 (土) 13:00~17:00

場所：愛知学院大学 名城公園キャンパス アガルスタワー10 階

テーマ：わかもの活動 何でも相談所

参加者：45 名



→愛知で 2 回目となる今回は、「わかもの活動 何でも相談所」と題し、学生が抱えている悩みや困りごとに 4 人のプロがアドバイスする場としました。

まずは 4 人のプロの講演からスタート。自身の体験を踏まえて披露いただいた成功するためのポイントは、若者だけでなく運営スタッフとして参加した PICC 会員

にとっても参考になるもので、新しい挑戦をしていくための力となりました。

後半は、会場に設けた2つのブースに分かれ、「わかもの活動なんでも相談会」を開催。手を伸ばせば届くほどの近い距離で、4人の講師と参加した若者が対峙。クラブやサークル、社会活動の現場で悩んでいる若者から様々な質問を投げかけ、大人講師から一人一人丁寧にアドバイスしてもらえるとこの贅沢な時間となりました。

◎ 第9回マイコミュニティフォーラム in 広島

2017年11月11日(土) 13:30~17:30

場所：広島経済大学 明德館 アクティブラーニングcommons

テーマ：私たちの行動【興動】でひらく明るい未来

参加者：150名



→ 「人間力とはどういうものか?」「若者が成長するためには?」を考えるための場としました。まずは3人の世話人による鼎談からスタート。公務員志望の学生が多かったため、外務省、財務省、国土交通省で世話人自身が経験されてきたことを踏まえ、公務員を志望した動機や仕事をする上で大切にしてきたこと、学生のうちにできること等、いろいろな角度からアドバイスをいただいています。

続いて広島経済大学からは興動館プロジェクトに所属する学生から自身の活動についてのプレゼンテーションを実施。その後もパネルディスカッションや経営者と学生と一緒に取り組むワークショップなど、「人間力とは?」「成長するためにはどうしていくべきか?」についてそれぞれが考え、参加者同士で意見交換を行う、濃い時間とすることができました。

⑩ 第10回マイコミュニティフォーラム in 大阪

2017年12月2日(土) 14:00~17:00

場所：大阪能楽会館

テーマ：豊かな未来を創るソーシャルグッドな活動を。

参加者：125名



→冒頭は、世話人の村尾氏から「私の社会をつくるための2つの券」をテーマに講演。続いて社会性の高い活動をしている学生4団体、企業2社が伝統ある能楽の舞台でプレゼンテーション大会を行いました。観覧者がそれぞれ2票を持ち、プレゼンを聞いて応援したいと思う団体に投票してもらいました。優勝団体には、PR動画制作権が贈られ、今後の団体の活動の広報活動に活用してもらいます。

準備の段階から PICC 会員が学生と深く関わり、各団体の事業やプレゼンについてアドバイスをすることで、大きく成長する姿を確認できました。マイコミュニティフォーラムおよび学生との関係性において新たな可能性を見出すことができたと感じています。

【考察・今後の展開】

全てが手探りの中でスタートしましたが、実施回数が10回を超え、ようやくフォーラム開催のノウハウが固まりつつある段階に入ってきました。来場者の反応を見る限りでは、内容については概ね合格点をいただけていると認識しています。実際、来場者アンケートでは10点満点で平均8.65の高い評価をいただくことができています。

特に高く評価されているポイントは、気付きのある講演を聞くことができる場であると同時に、学生と大人が対話できる場であるという2点です。有識者や著名人の話を一方的に聞くだけの機会は世の中に多いと思いますが、インプットとアウトプットの両方を同時にできる場を、全国規模で展開していることはマイコミュニティフォーラムの独自性になっていると考えています。

参加した学生からは、「自分の世界観が広がった」「知らない大人と話をするのが、こんなに楽しいなんて知らなかった」という声を多数いただくことができています。

また、世話人の一人、ニュースキャスターの村尾信尚氏は、「人から意見を得ることは、今の時代はインターネットでもできることだと思う。しかし、今日のように一つの場所に多くの人が集まって話し合う空間では、相手の表情やししゃべり方、服装、そういうもの全て含めていろいろな情報が入ってくるので、インターネット空間とは質的に全く違う情報交換ができていると強く感じた」と、フォーラムで提供している直接対話の場の価値を評価いただいています。



一方で、フォーラムに参加してもらい気付きを与えるだけでは、一過性のものに終わってしまう恐れがあることは課題としてとらえています。フォーラム開催後も来場者やゲストと連携し、これから継続的に接点を持てる方法を検討し、取り組んでいきたいと考えています。

これまでの活動の中で、地域/社会のために活動している団体が数多く存在すること、彼らは横（同じような活動をしている他団体）とのつながりを求めていることが把握できました。実際に、フォーラムをきっかけに団体同士が知り合い、協業する事例がいくつか生まれています。また、フォーラムの企画・運営自体について地域の学校と協力することで若者の集客、会の運営等に高い相乗効果があることが分かってきました。今後はこうしたつながりをあらかじめ意識しながら、世話人、地域活性学会、地方議員、NPO・NGO、学生等、より多くの人たちを巻き込んで一つの地域コンソーシアムをつくってまいります。

そして、そのつながりから生まれた成功事例を共有していくことで、この手法を活用した地域/社会振興、若者支援、NPO支援について横展開をはかり、公益資本主義の考えを日本中、世界中へと拡げてまいりたいと考えています。

【2018年のマイコミュニティフォーラムについて】

●2018年のテーマ

学生、特に「大学生」をターゲットに、「働く」＝「社会への貢献」、「会社」＝「社会の公器」という PICC のベースとなっている考えを伝え彼らの就職意識や就労意識をポジティブに変えていく場をつくる。

- ①若者が成長できる場
- ②社会に対し行動力の高い学生同士・社会人が交流できる場
- ③今はOFFの若者がONになるための刺激を得られる場

新たに「U25 会員」制度を設け、大学生を中心とした若者と継続した接点をさらに拡大・継続していくことにチャレンジします。

●共通タイトル＝「YouthQuake」

2017年のオックスフォード英語辞書「今年の英単語」として選ばれた言葉。半世紀前から使われているが、近年メディア等で急速に注目が高まっている言葉。マイコミュニティフォーラムは「若者による社会的地殻変動」を目指します。

以上

PICC 2017 年度活動報告書

2018年3月31日 発行

著 者 大久保 秀夫

発行元 一般社団法人公益資本主義推進 組織運営本部事務局

〒150-0001

東京都渋谷区神宮前 5-52-2 青山オーバルビル 14 階

電話 03-6826-1234

本書の内容の一部または全部を無断複写、複製、転載することを禁じます。

